

平成30年度「とちぎっ子学習状況調査」の結果概要について

宇都宮市立白沢小学校

家庭や地域から「信頼される学校」であるためには、学校の状況や児童の実態を保護者や地域の方々に十分御理解いただく必要があります。その上で、家庭や地域と一体となって児童を育てることが大切であると考えています。

こうした考えから、平成30年度「とちぎっ子学習状況調査」における本校児童の学力や学習状況の概要について、以下のとおり公表します。

また、調査結果は、学習指導の工夫・改善に役立てることが大切ですので、調査結果の分析、指導の改善策などを併せて掲載します。

【調査の概要】

1 目的

本県児童生徒の学力や学習の状況等を把握・分析し、児童生徒一人一人の課題を明確にするとともに、各学校が組織的に学習指導における検証改善サイクルの構築・運用に取り組むことにより、本県児童生徒の学力向上に資する。

2 調査期日

平成30年4月17日(火)

3 調査対象

小学校 第4学年、第5学年(国語、算数、理科、質問紙)

4 本校の実施状況

第4学年	国語	48人	算数	48人	理科	48人
第5学年	国語	51人	算数	51人	理科	51人

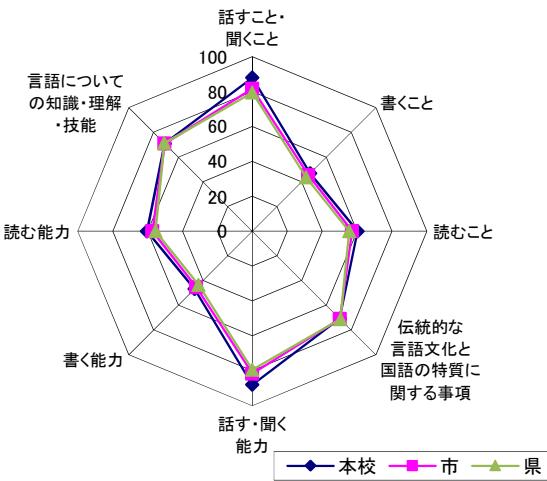
5 留意事項

- (1) 本調査は、対象となる学年、実施教科が限られていることや、必ずしも学習指導要領全体を網羅するものでないことなどから、本調査の結果については、児童が身に付けるべき学力の特定の一部であることに留意することが必要となる。
- (2) 本校の傾向等を分かりやすく示すために分類・区分別の平均正答率などを公表した。
- (3) 平均正答率の数値は調査結果のすべてを表すものではないため、「本年度の状況」、「今後の指導の重点」などの分析を併せて記載した。

宇都宮市立白沢小学校 第4学年【国語】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	話すこと・聞くこと	87.9	81.6	79.4
	書くこと	46.8	45.4	43.6
	読むこと	60.3	57.2	55.5
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	70.9	71.1	71.4
観点	話す・聞く能力	87.9	81.6	79.4
	書く能力	46.8	45.4	43.6
	読む能力	60.3	57.2	55.5
	言語についての知識・理解・技能	70.9	71.1	71.4



★指導の工夫と改善

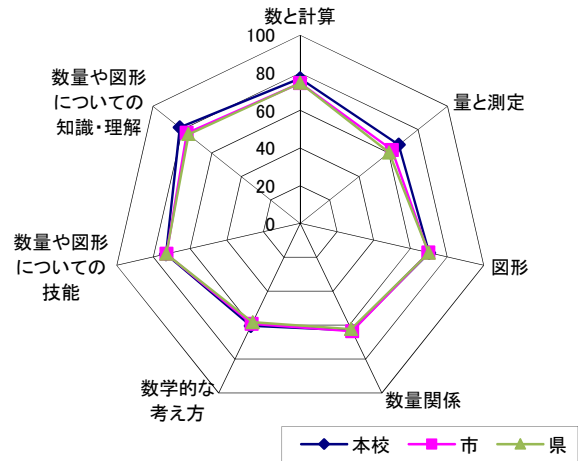
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
話すこと・聞くこと	○領域の平均正答率は87.9%で、県平均より8.5ポイント高い。 ○「話し合いにおいて司会者の役割を理解し進行する」ことは、県平均より8.1ポイント高い。 ○「理由を挙げながら筋道を立てて話す」ことは、県平均より11.6ポイント高い。	・今後も引き続き授業の中に子どもたち同士の学び合いの場を積極的に取り入れることにより、話す・聞く力の向上を目指していく。 ・学級活動の話し合い活動において、誰もが司会などの役割を行い、進行の仕方が身に付くよう指導していく。
書くこと	○領域の平均正答率は46.8%で、県平均より3.2ポイント高い。 ○メモを基に、報告レポートに記述する内容を考えて書く設問は、県平均より13.5ポイント高い。 ●メモや友達の意見を基に、報告レポートの内容を書く設問は、県平均より4.2ポイント低い。	・文章の内容に合った項目、見出しを考えて、レポートや新聞にまとめる活動を充実させていく。 ・国語だけでなく、他教科とも関連させ、まとめる機会を増やし、書く力の向上を目指していく。
読むこと	○領域の平均正答率は60.3%で、県平均より4.8ポイント高い。 ○叙述を基に、登場人物の気持ちを想像して読む設問は、県平均より12.1ポイント高い ●問題に合う文章を書きぬく設問は、県も本校も正答率が低い。	・説明文においては、要点や中心となる言葉を捉えて読み取る学習を充実させていく。 ・物語文においては、登場人物の性格や心情を捉えながら読み取る学習を強化していく。 ・読書の機会を増やし、想像力を働かせながら読み進める楽しさを実感させるようにしていきたい。
伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	●領域の平均正答率は70.9%で、県平均より0.5ポイント低い。 ○国語辞典の使い方に関する設問は、県平均より6.3ポイント高い。 ●ローマ字を書く設問は県平均より12.9ポイント低い。 ●指示語を選ぶ設問は県平均より5.5ポイント低い。	・漢字やローマ字等の基礎的な学習内容を、自主的に繰り返し復習することで定着が図れるよう、家庭学習や朝学習を充実していく。 ・文章を読む際に、指示語に注目させ、全体で確認しながら授業を進めていく。

宇都宮市立白沢小学校 第4学年【算数】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	数と計算	77.0	74.5	74.6
	量と測定	67.0	62.4	60.4
	図形	70.2	69.9	70.1
	数量関係	63.0	63.6	62.3
観点	数学的な考え方	60.4	59.2	58.3
	数量や図形についての技能	73.2	72.9	73.0
	数量や図形についての知識・理解	81.8	77.1	76.0



★指導の工夫と改善

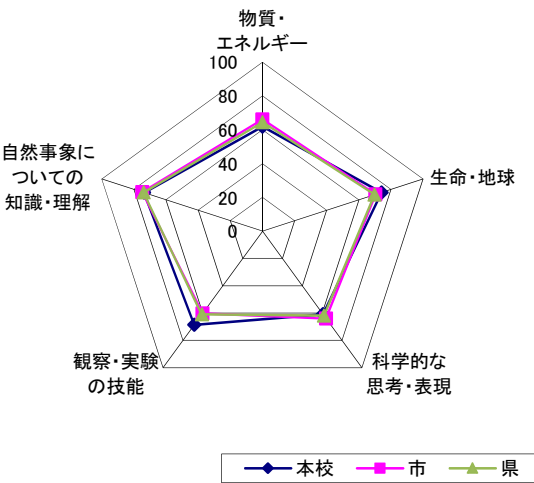
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	○領域の平均正答率は、県平均と比べて2.4ポイント高い。 ○「繰り下がりのある引き算」は県平均と比べて11.6ポイント高い。 ●「基準量よりも比較量の方が大きい場面で何倍かを求める」問題では、県平均より9.7ポイント下回った。	・復習プリントやドリルなどを活用し、繰り返し計算練習をすることで、定着を図る。 ・問題文を読み取る力を伸ばすために、類似の問題を定期的に解くようにする。
量と測定	○領域の平均正答率は県平均と比べて6.6ポイント高い。 ○「はかりが示す重さを読み取り、みかんの重さを求める」問題では、県平均より13.2ポイント上回った。 ●「ある時刻に間に合う一番遅い電車の発車時刻を求める」問題では、県の平均を5.9ポイント上回ったが、本校の正答率は42.6ポイントと多くの児童が未定着であった。	・問題を数直線や図を使って表す活動を取り入れ、数量感覚をつかめるようにする。 ・数学的用語や単位の意味を確認し、復習プリントやドリルで定着を図る。
図形	○領域の平均正答率は県平均とほぼ同じであった。 ○「折り紙を2つに折って切った後、広げてできる形を選ぶ」問題では県平均を7.1ポイント上回った。 ●「正方形に内接する円の直径の長さを選ぶ」問題では、県平均より8.6ポイント低い。	・正確な作図ができるように器具の操作や手順を丁寧に指導する。 ・図形の定義や性質を確実に理解させるために、具体物を活用していく。
数量関係	○領域の平均正答率は県平均と比べて0.7ポイント上回った。 ●「□を用いた乗法の式に適した場面を選ぶ」の問題では、県平均より4.9ポイント下回った。 ●「棒グラフからわかることとして正しい内容を選ぶ」問題では、県平均より10.1ポイント下回った。	・問題を図や数直線などを使って表す活動を取り入れることで、式を立てられるようにする。 ・式の意味の理解を深めるために、ペア学習などを行って自分の考えを説明する活動を取り入れる。

宇都宮市立白沢小学校 第4学年【理科】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	物質・エネルギー	61.9	66.1	64.4
	生命・地球	74.1	70.4	69.8
観点	科学的な思考・表現	60.9	64.1	61.9
	観察・実験の技能	68.6	60.2	61.0
	自然事象についての知識・理解	73.7	74.8	74.0



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の改善
物質・エネルギー	●領域の平均正答率は61.9%で県平均より2.5ポイント低い。 ○設問別では、ゴムをねじる回数と物を動かす力の関係を考察する問題の正答率は80%を超え、県平均を上回っている。 ○「天びん」「回路」の名称を答える問題についても正答率は県平均を9ポイント以上上回っている。 ●日光を重ねたときの明るさと温度を考察する問題(記述式)の正答率は県平均を10ポイント以上下回っている。 ●豆電球に明かりがつくつなぎ方や回路の正答率は全体的に低く、県平均を10ポイント以上下回っている。	・鏡を使って日光を重ねたときの明るさや温度について、実験の方法を工夫するとともに、結果をじっくりと考察させ、鏡の枚数を増やしたときの変化がしっかりと理解できるようにする。 ・記述式(文章で答える)の問題に慣れていなかったことも正答率の低さにつながっていると考えられるため、実験の結果を考察する際に、キーワードなどを提示し、文章を使って適切に表現する習慣をつけていく。 ・「電気で明かりをつけよう」の単元の正答率が全体的に低いので、実験や考察の時間をしっかりと確保し、理解が深まるよう重点的に指導していく。 ・乾電池と豆電球のつなぎ方や電気を通すものと通さないものの識別などについて、実感を伴った理解ができるよう、実験方法や素材の準備などを工夫し、今後の単元指導に生かしていく。
生命・地球	○領域の平均正答率は74.1%で県平均より4.3ポイント高い。 ○設問別では、昆虫の育ち方やたまごをうむ場所についての問題の平均正答率は90%を超え、県平均を7ポイント以上上回っている。 ○虫眼鏡の適切な操作方法についての問題の正答率は、県平均を17ポイント上回っている。 ○方位磁針・温度計の適切な操作方法についての問題の正答率は、県平均を5ポイント以上上回っている。 ●昆虫の体の色とすみかとの関係について考察する問題の正答率は、県平均を若干下回っている。 ●「時間によるかげの変化」及び「日なたと日かげの地面の時間による温度変化」についての問題の正答率は県平均を上回っているものの、50%程度であった。	・昆虫は外敵から身を守るなどの理由ですみかと同じような体の色をしていることが意識できるよう、校庭での観察などのときに体の色と周りの色をよく見させるなど、工夫して指導する。 ・正答率が低い問題に関しては、問題の意図を理解できていないことが大きな要因の一つであると考えられるので、問題の意図を理解し、じっくり考えて正確に答えられるよう、文章や図・表・グラフなど情報量の多い問題に意図的に取り組ませ、慣れさせていく。 ・「太陽の動きとかげの動きの関係」「日なたと日かげの地面の温度」などについて、観察や実験を通して理解できるよう、指導法を工夫していく。また、実験や観察の結果から考察する問題の正答率が低い傾向があるので、授業の中で結果から分かることをじっくり考える時間を確保し、科学的な思考力を高めていく。

宇都宮市立白沢小学校 第4学年 児童質問紙調査

★傾向と今後の指導上の工夫

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

○「自分にはよいところがあると思う」に肯定的回答をした児童の割合は、89.4%であり、県平均を10.2ポイント上回っている。自己肯定感が高く、何事も前向きに取り組む児童が多い。係や当番活動、学級活動の時間を通し、クラスの一員として活動する時間や、帰りの会で友達の良さを発表するなど、継続して行っていきたい。

○「授業で分からないことがあると、先生に聞くことができる」に肯定的回答をした児童の割合は、87.2%であり、県平均を13.9ポイント上回っている。今後も、より話しやすい環境作りや、答えを伝えるだけでなく、やりとりすることで考えや理解をより深められるようにしていきたい。

○「家で学校の授業の復習をしている」に肯定的回答をした児童の割合は、84.0%であり、県平均を18.4ポイント上回っている。これからも家庭と連携し、継続して取り組ませたい。

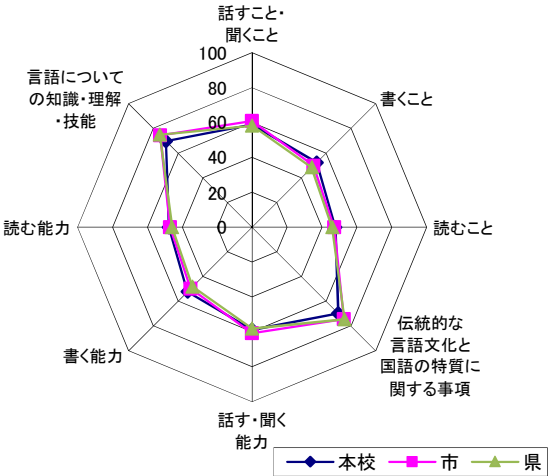
●「疑問や不思議に思うことは分かるまで調べたい」に肯定的回答をした児童の割合は、63.8%であり、県平均を4.2ポイント下回っている。「地域や社会で起こっている問題や出来事に関心がある」に肯定的回答をした児童の割合は、57.4%であり、県平均を8.5ポイント下回っている。世の中のことや出来事への興味関心が低い。新聞を活用した授業を行ったり、地域学習を取り入れたりして、児童の興味が広がるような手立てを工夫していきたい。

●「本やインターネットなどを利用して、勉強に関する情報を得ている」や「分からない国名や地域名があったら、インターネットや地図帳などを使って調べている」の設問に関して、肯定的回答をした児童の割合は、県平均より低い傾向が見られた。もっと知りたい、できるようになりたいと思う気持ちを普段の授業で持てるよう、そのような機会を増やし、成果が目に見えたり、競争させたり等の工夫を凝らしていきたい。また、頑張ったことやできるようになったことには、認め褒める機会を多くしていきたい。

宇都宮市立白沢小学校 第5学年【国語】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	話すこと・聞くこと	58.8	60.8	58.1
	書くこと	52.3	49.8	48.3
	読むこと	47.7	47.0	45.9
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	69.8	74.4	74.8
観点	話す・聞く能力	58.8	60.8	58.1
	書く能力	52.3	49.8	48.3
	読む能力	47.7	47.0	45.9
	言語についての知識・理解・技能	69.8	74.4	74.8



★指導の工夫と改善

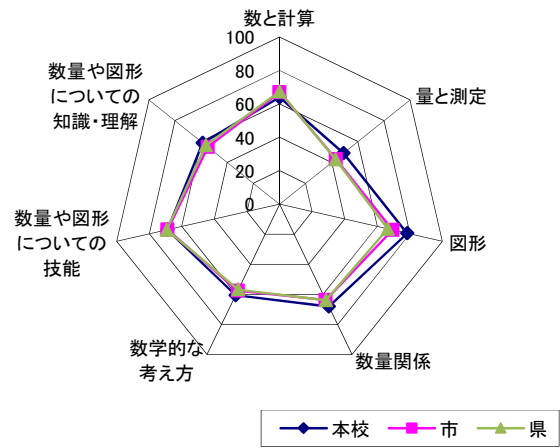
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
話すこと・聞くこと	○領域の平均正答率は、58.8%で、県平均より0.7ポイント高い。 ○話し合いにおける考えの共通点や相違点を整理して話す設問は、県平均より3.8ポイント高い。 ○話し合いにおいて司会者の役割を理解し進行する設問は、県平均より2.1ポイント高い。 ●話し合いの中で意見の共通点を考えて書く設問は、県平均より3.9ポイント低い。	・学級活動における話し合い活動で、司会や書記の役割を全員に経験させたり、グループでの話し合い活動を取り入れたりするなど表現力の育成に努める。 ・学級活動における話し合い活動や、授業における発言などについて、常に要点を捉えて聞く意識をもたせる。
書くこと	○領域の平均正答率は、52.3%で、県平均より4.0ポイント高い。 ○掲示物の内容に合う資料を選ぶ設問は、県平均より4.3ポイント高い。 ○インタビューの結果をもとに必要な内容を整理して書く設問は、県平均より7.9ポイント高い。 ●資料(表)をもとに説明する設問は、県平均より0.3ポイント低い。	・国語や理科、社会などにおいて、グループなどで資料をもとに発表する機会を多く取り入れ、伝えたいことに沿った資料分析や原稿作成をする活動を行う。 ・リーフレットやパンフレットなど、様々な形態の文章を書く過程において、メモの作り方や文章の構成について細かく指導していく。
読むこと	○領域の平均正答率は、47.7%で、県平均より1.8ポイント高い。 ○中心となる語や文を押さえて読む設問は、県平均より12.5ポイント高い。 ●段落の要点を押さえて要約する設問は、県平均より7.1ポイント低い。 ○登場人物についての描写から心情を想像して読む設問は、県平均より11.8ポイント高い。 ●叙述をもとに登場人物の気持ちを想像して読む設問は、県平均より7.2ポイント低い。	・朝の学習時間や授業の初めの時間などを用いて、文章量を段階的に増やしなが、段落の要点を見つける活動を継続的に行う。 ・登場人物の気持ちを読み取る活動において、叙述のどの部分からどのように考えたのか、根拠を明確にするよう指導する。
伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	●領域の平均正答率は、69.8%で、県平均より5.0ポイント低い。 ●漢字の読みの設問は、県平均より5.6ポイント、書きの設問は、県平均より2.8ポイント低い。 ○漢字辞典の使い方の設問は、県平均より17.1ポイント高い。 ●日常使われている簡単な単語のローマ字の読み方の設問は、県平均より18.0ポイント低い。	・ミニ漢字大会やミニことわざ大会など、言語に関する知識を楽しみながら確実に蓄積できる活動を取り入れる。 ・名前や掲示物、教室環境にローマ字を取り入れて読みに慣れさせたり、プリント学習を取り入れて書くことに慣れさせたりする。

宇都宮市立白沢小学校 第5学年【算数】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	数と計算	64.0	66.9	67.4
	量と測定	49.0	43.2	43.0
	図形	78.4	69.4	66.5
	数量関係	68.1	63.7	63.9
観点	数学的な考え方	60.5	57.5	56.8
	数量や図形についての技能	68.8	68.8	69.3
	数量や図形についての知識・理解	58.8	54.9	56.4



★指導の工夫と改善

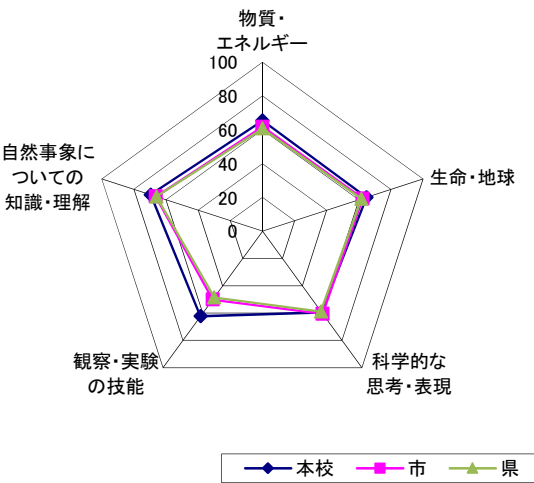
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	○平均正答率は64.0%であり、県平均よりも3.4ポイント下回っている。 ○設問内容では、小数のひき算が県平均よりも3.9ポイント、かけ算が県平均よりも0.9ポイント上回っている。 ●帯分数－真分数の計算の平均正答率は、県平均よりも9.4ポイント下回っている。	・数量やその関係を言葉・数・式・図・グラフなどに表したり調べたりする学習活動を継続していくことで、数と計算についての知識や数学的な考え方を深めていく。 ・文章題の理解については、テープ図や数直線等の具体物を取り入れ、問題場면을視覚化した指導を行っていく。
量と測定	○平均正答率は49.0%であり、県平均より6.0ポイント上回っている。 ○はがきのおよその面積を選ぶ設問では、15.3ポイント上回っている。 ○1mの正方形の辺に1cmの正方形が何枚並ぶか求める設問では、12.8ポイント上回っている。 ●図をもとに180°より大きい角度の求め方を説明する設問では、1.4ポイント下回っている。	・ただ公式を覚えるのではなく、身近な物の情報と公式、単位を照らし合わせて事柄を比較・整理して解決することができるような場を設け、さらに定着を図る。 ・授業の中で、課題の解決の仕方を言葉や文章で表す場を設けることにより、正しい表現力が身に付くように指導していきたい。
図形	○平均正答率は78.4%であり、県平均よりも11.9ポイント上回っている。 ○平行四辺形を作図する設問では、県平均を25.2ポイント上回っている。 ●式と図に合う複合図形の面積を求める方法を説明する設問では、県平均を上回っているが、正答率が27.5%となっており他の設問より低い。	・図形の性質を理解させた上で、作図の仕方を確認する。定規やコンパスを適切に使えるように指導する。 ・授業の中で、複合図形の求積の方法を言葉や文章で表す場を設けることにより、正しい表現力が身に付くように指導していきたい。
数量関係	○平均正答率は68.1%であり、県平均より4.2ポイント上回っている。 ○ブロックの並べ方とブロックの個数の関係を式で表す設問では、15.6ポイント上回っている。 ●図や表から変わり方を考え、表に当てはまる数を求める設問では、正答率は88.2%と高いが、県平均より1.1ポイント下回っている。	・折れ線グラフや設問の意味を正しく読み取れることができるよう、算数の授業だけでなく、いろいろな場面で折れ線グラフの読み取り方を指導していく。

宇都宮市立白沢小学校 第5学年【理科】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	物質・エネルギー	65.4	61.7	60.7
	生命・地球	64.7	62.4	61.6
観点	科学的な思考・表現	59.5	60.6	58.9
	観察・実験の技能	62.3	50.1	48.6
	自然事象についての知識・理解	69.6	66.3	66.0



★指導の工夫と改善

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
物質・エネルギー	○領域の平均正答率は65.4%で、県平均より4.7ポイント上回った。 ○正答率が高かった設問は「水のあたため方についての実験で、予想が一致した場合の結果を見通すことができる」であり、正答率84.3%と県正答率を9.4ポイント上回っている。他の設問「白く見える物の正体が湯気という液体の水とわかる」や「乾電池2個を直列につないだときの回路図が分かる」なども、県平均を上回っている。 ●「盛んに泡を出しながら沸き立つことを沸騰と分かる」の設問が、51.0%の正答率と低く、県平均より15.5ポイント下回っている。 ●「金属は熱した部分から順に集まることが分かる」の設問が、43.1%の正答率と低く、県平均より7.9ポイント下回っている。	○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの 今後の指導の重点 ・基礎事項の定着を図るために、既習の学習内容をよく復習し、確認してから授業を進める。系統的な学習をさらに充実させていく。 ・実験では、「予想→実験→結果および考察」という過程を習慣化する。その中で自然事象に対する科学的な考え方を養うよう指導する。 ・学習したことを自分の言葉や文章で表現する習慣をつけることで、科学的思考及び表現力を高めるようにする。 ・学習内容によっては、映像や模型などで関連する資料を視覚的に提示し、多面的に追究できるようにする。
生命・地球	○領域の平均正答率は64.7%で、県平均より3.1ポイント上回った。 ○正答率が高かった設問は、「オオカマキリの図と同じ季節のカエルのようなすがたが分かる」であり、正答率82.4%と県平均を17.8ポイント上回っている。他にも蒸発や星座の動きに関する設問も県平均を上回っている。 ●「骨と骨のつなぎ目を関節ということが分かる」の設問の正答率は70.6%で、県平均より18.2ポイント下回っている。 ●「気温の変化から天気の様子を推測し、理由を説明する」の設問の正答率は31.4%であり、県平均より20.0ポイント下回っている。	・科学的現象や実験器具などの名称が定着するよう、実験や観測を行う際には必ず使用する器具の名称を確認する。また、新しく学習した用語については様々な場面で繰り返し使うことで定着を図っていく。 ・「水のすがた」では、理科の学習だけでなく、日常生活の中で見られる水の変化に関する現象に普段から目を向けるように声をかけていく。 ・実験を行う際には、結果や考察を自分の言葉で書かせることを習慣化させ、表現力を高めていく。

宇都宮市立白沢小学校 第5学年 児童質問紙調査

★傾向と今後の指導上の工夫

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

○「授業で分からないことがあると、先生に聞くことができる」に対する肯定的回答の割合は86.3%で、県平均を12.3ポイント上回っている。対話による学び合いの学習を行ってきた成果が表れている。また、「勉強していて、おもしろい、楽しいと思うことがある」に対する肯定的回答の割合が90.2%で、県平均を4ポイント上回っている。児童それぞれの学びに向かう力が高まっていると考えられる。

○「誰に対しても思いやりの心をもって接している」に対する肯定的回答の割合は92.2%と高く、県平均を3.9ポイント上回っている。また、「人と話すことは楽しい」と回答した割合も96.1%と高くなっている。豊かな心をもって人と接することの大切さを、今後も指導していきたい。

●「家で、学校や塾の決められた宿題のほかに自分で考えた勉強をしている」に対する肯定的回答の割合は39.2%で、県平均を23.1ポイント下回っている。「家で、自分で計画を立てて勉強をしている」に対する肯定的回答の割合は64.7%で、県平均を6.7ポイント下回っている。地域学校園共通の「家庭学習への取り組み」を全児童に配付し、自主的な家庭学習を奨励しているが、今後も引き続き呼びかけていきたい。

●「授業で自分の考えを文章でまとめて書くことは難しい」と回答した割合が70.6%と、県平均より14.3ポイント高くなっている。「国語の授業で自分の考えの理由が分かるように気を付けて書いている」に対する肯定的回答の割合は68.6%と、県平均より8.4ポイント低く、「算数の授業で問題の解き方や考え方が分かるようにノートに書いている」に対する肯定的回答の割合は68.6%と、県平均より15.8ポイント低くなっている。自分の考えや問題の解決の仕方を、文章で表現する活動を行ってきたが、これからは継続していきたい。

●「毎日、同じくらいの時刻に寝ている」に対する肯定的回答の割合は56.9%で、県平均を23.3ポイント下回っている。また、「早寝、早起きを心がけている」に対する肯定的回答の割合は68.6%と、県平均を10ポイント下回っている。規則正しい生活をしっかり実践できるようにするために、児童に直接指導したり、家庭での協力を便り等で呼びかけたりして改善を図ってきたい。

宇都宮市立白沢小学校（第4・5学年共通） 学力向上に向けた学校全体での取組

★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
・「めあて」「まとめ」「ふりかえり」の確認・徹底 ・学び合う活動の実践 ・家庭学習の習慣化・充実に向けた指導の工夫	・全教職員が共通理解のもとに、授業において「めあて」「まとめ」「ふりかえり」を板書し、ノートにまとめる指導を行っている。 ・自分の考えを言葉や文章で表現したり、いろいろな形態（ペア・グループ・全体）で学び合ったりする活動を設定している。 ・「家庭学習の手引き」などを活用し、宿題以外にも自分で考えた学習をするように指導している。また、どのような学習をしたらよいか、例を示したり、友達のやり方を紹介したりしている。	・「授業では、めあて・まとめがしめされている」と回答した児童の割合が高い。 ・「グループなどの話し合いに自分から進んで参加している」の肯定的回答の割合が県よりもやや下回っている。 ・「家で、学校や塾の決められた宿題のほかに自分で考えた勉強をしている」に対する肯定的回答の割合は、県平均よりも低い。

★学校全体で、今後新たに重点を置いて取り組むこと

調査結果等に見られた課題	重点的な取組	取組の具体的な内容
「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」の領域において、正答率が低い。本やインターネットで情報を得たり、調べ学習によって知識を身に付けようとしていたりする児童の割合がやや低い。	・国語辞典、インターネットを活用する。 ・読書を奨励する。 ・自主学習の進め方を確認する。	・語彙や知識を増やすために、国語辞典を活用したり、読書を奨励したりする。 ・「自主学習の進め方」を活用し、どのような学習が自分にとって必要か考えながら取り組むよう支援する。 ・視聴覚教材を生かして指導を行う。